

口腔機能学

《担当者名》 歯学部教授 / 飯田 貴俊
歯学部教授 / 石井 久淑
歯学部助教 / 高橋 昌己

【概要】

歯科衛生士として必要な口腔機能、特に摂食嚥下機能について理解する。

【全体目的】

超高齢社会日本においては、高齢・様々な疾患による口腔機能の低下が「食べる」、「話す」ことに障がいを来し、結果として栄養障がい（低栄養：やせすぎ）、誤嚥（性肺炎）、窒息、コミュニケーション障がいを生じ、高齢者のQOL（生活の質）の低下を招いている。介護保険においては、このような生活の質の低下の予防のために口腔機能向上が取り入れられた。

口腔機能学では、上記のような生活の質の低下を招く口腔機能について学ぶとともに、機能低下（障がい）、その対応法についての基本を学ぶ。口腔機能学では、口腔機能の主として「食べる」と関連する摂食・嚥下機能を重点的に学ぶ。また、学ぶ領域としては口腔のみならず、より広く食べる機能に関連する「のど」咽頭・喉頭についても学ぶ。

【学修目標】

歯科衛生士に求められる摂食・嚥下に関わる構造と機能および発達と障がいに伴う症状と検査の知識を修得するため、

- 口腔、咽頭、喉頭の構造を説明する。
- 摂食嚥下の運動に関わる骨格筋を説明する。
- 口腔機能の概略を説明する。
- 摂食嚥下機能を説明する。
- 摂食嚥下機能の発達を説明する。
- 摂食嚥下障がいの症状を列挙する。
- 摂食嚥下障がいのスクリーニング検査を説明する。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	摂食・嚥下に関わる構造（解剖）	口腔、咽頭、喉頭の構造を説明できる。 摂食・嚥下に関連する骨格筋を列挙できる。	高橋 昌己
2	摂食・嚥下に関わる機能（生理）	摂食5期を挙げて、各期の特徴を説明できる。 咀嚼の役割と咀嚼運動（特に顎運動）を説明できる。 嚥下の3期を挙げて、各期に伴う運動と役割を説明できる。	石井 久淑
3	食べる機能と摂食嚥下障害	摂食嚥下障害モデルに基づいて各期のメカニズムについて説明できる。 摂食嚥下低下（障害）の要因について知る。 摂食嚥下障害モデルに基づいて各期にみられる症状について説明できる。	飯田 貴俊
4	食べる機能の発達と小児の摂食嚥下障害	小児の摂食嚥下機能の特徴について知る。 小児の摂食嚥下機能の病的変化について知る。 小児の摂食嚥下障害への基本的な対応方法を知る。	飯田 貴俊
5	食べる機能の加齢性変化と高齢者の摂食嚥下障害	高齢者の摂食嚥下機能の病的変化について知る。 主な原因疾患による摂食嚥下障害について知る。	飯田 貴俊
6	摂食嚥下機能の評価 摂食嚥下障害への介入：間接訓練	摂食嚥下リハビリテーションにおける評価の考え方を 知る。 情報収集について説明できる。 機能および構造の観察，検査を知る。 主要なスクリーニング検査について説明できる。 嚥下造影検査，嚥下内視鏡検査を知る。 摂食嚥下障害への介入の基本的な考え方を 知る。 基本的な間接訓練について学ぶ。	飯田 貴俊

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
7	摂食嚥下障害への介入：直接訓練 摂食嚥下リハビリテーションにおける リスクマネジメント	基本的な直接訓練について学ぶ。 食指導・食支援について説明できる。 摂食嚥下リハビリテーションにおけるリスクマネー ジメント（口腔咽頭吸引・窒息への対応）について学ぶ	飯田 貴俊
8	オーラルフレイル・口腔機能低下症 について	オーラルフレイル・口腔機能低下症について知る。 口腔機能低下症の評価方法について学ぶ 口腔機能低下症の対応方法について学ぶ	飯田 貴俊

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学環、学校の授業実施方針による

【評価方法】

定期試験 100%

【教科書】

歯科衛生士のための摂食・嚥下リハビリテーション（医歯薬出版）

【参考書】

全国歯科衛生士教育協議会 監修 「歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」 医歯薬出版 2012年

【備考】

配布プリント

【学修の準備】

これまで学んだ科目のうち、口腔解剖学、口腔生理学についてよく復習して講義に臨む。

予習：110分 教科書や参考書を活用して、各項目の内容を予習する。

復習：100分 教科書や配布プリントなどを活用し復習する。